

20年前、エバーウォールは「住環境と健康」にいち早く着目し、この日本に於いて、室内塗り壁材ダイアトーマスをスタートさせました。そしてコロナ禍の2020年、今年ほど環境が、人との繋がりとそれぞれの「健康」に影響を与える、ということについて考えさせられた一年はなかったのではないのでしょうか？

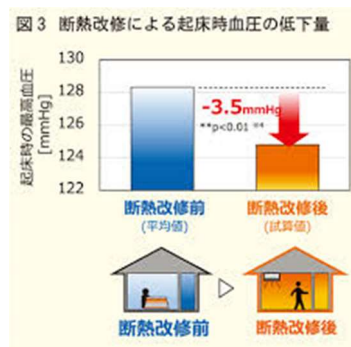
そこで2020年もあと僅かとなりましたが、今冬季シーズンをウイルスに負けずにのりきって頂くためにも、改めてAirQuality Reportで冬季に於ける「室温と結露」が私たちの健康に大いに関わる事柄なので重要なポイントを簡単におさらいしたいと思います。

WHO 2018年11月27日、住宅と健康ガイドライン2018

冬季最低室温 18度以上を発表（強く勧告）

- 18℃未満・・・血圧上昇、循環器系疾患の恐れ
- 16℃未満・・・呼吸器系疾患に対する抵抗力低下
- 5℃未満・・・低体温症を起こす危険大

***室温差による起床時の最高血圧が最大 3.5mmHg が違うことが証明されました。**



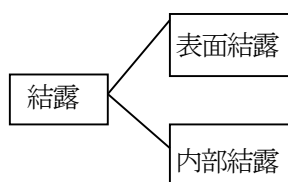
では室温が高くなると結露の心配が・・・

結露

結露とは何？・・・温度差ができることで、空気に含まれていた水蒸気が水滴になること

結露が生まれる理由

- 1・外気と室内の温度差があるため。
- 2・室内の湿度が高いこと。



「内部結露」が大問題！

窓ガラスのように目に見えないため、結露を拭くことができません。結露した部分の水分が空気中に戻るまで、ずっと結露状態となり、その結果、カビが生え、カビを好んで餌にするダニも住みついてしまいます。

場合によっては、家の強度を損うことも・・・

カビの発生・・・水分・温度・酸素・養分の4要素が必要

カビの胞子はアレルギー疾患を起こします。喘息の多くは、カビが原因です。また、カビは有害な揮発性化学物質(VOC)を出していることも分かっています。これを微生物由来揮発性有機化合物(MVOC)といい、カビは有機物質に附着して繁殖、その際にカビ臭いにおいのもとであるジェネオスミンなどのVOCを生産します。(リフォーム新聞から抜粋)



冬季に室温を18℃以上に維持したり、結露等でカビが生えない環境にすることは皆様の居住空間における質の向上に繋がり、それが私たちに健康をもたらしてくれます。ダイアトーマスの壁はビニールクロス壁に比べて冬季では3~4℃の気温差があります。また表面に無数の気孔があり、室内の湿度を調整してくれて、いつでも快適な空間で過ごして頂けるのがダイアトーマスの特徴です。

さて、2020年今年もAirQuality Reportをご愛読いただき、ありがとうございました。

新たな時代となり、居住空間における質の向上が健康に繋がっていることを、今まで以上にAirQualityを通じて私たちは発信して参ります。